一心太助の天秤棒

～前の籠には責任を、後の籠には信頼を肩に担で売り歩く～

越谷市会議員　白川　ひでつぐ

シリーズ/NO　１２２号

Web サイト　Youtube　Twitter　Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期２０年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内６駅での朝の駅立ちは、通算４０００日を超えました。私の日々のツィッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTube の白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は２２９名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録

越谷市会議員選挙特集　シリーズ NO３

選挙初日、市民対話集会を地元で

４月 16 日（日）越谷市議会選挙の告示日となったが、選挙運動の開始はこの日に選挙管理委員会に立候補届である必要書類（相当多くの書類や証明書を揃えている事が伴う）の提出をする。そして選管が一枚、一枚確認して、初めて選挙７つ道具と呼ばれるグッズが手渡されて選挙運動が出来る様になっている。

そのため、立候補受付の会場となった越谷市中央市民会館には、午前 8 時 30 分受けつけ開始に備えて、私の陣営からは市民 2 人が参加した。まず受付順の抽選ののちに書類審査が開始される。今回は 47 人もの立候補者のために時間を要しており、私は 30 番目となり、これが市内 520 か所にも及ぶ公営掲示板のポスター貼付の番号となった。

一方私は街宣車と運転手、ウグイス嬢と共に市役所前の駐車場に午前 9 時過ぎから待機していた。当然他陣営の街宣車も待機しており、旧知の議員との談笑やそれぞれの街宣車を見て回った。街宣車の看板には白い紙等で目隠しが必置であり、立候補届け出が終了して、カバーを剥がす事が出来るため、それぞれの陣営のスタッフが中央市民会館から徒歩で来てから直ちに作業に入っていた。

選挙車の証明書や乗車の運動員の腕章等を身に着けて、次々と駐車場を出で行く街宣車から候補者やウグイス嬢の大きな声が日曜日の朝からこだます選挙初日の最初のシーンとなった。

私の陣営も午前 11 時前には、市役所を出て真っ先に地元の市民の皆さんに立候補のご挨拶に向かった。

またこの日、選挙初日に地元の皆さんを中心に私の自宅前の公園で「第２７回白川ひでつぐ市民対話集会」を午後 4 時から開催するため参加のお誘いも。

そして、午後 4 時前には街宣車を公園横に停車して YouTube でライブ配信のための放映器材の設置、「市議会選挙ライブ配信中」と記した初登場ののぼりも会場に。この日は曇り空が朝から続いており、今にも雨が降り出しそうな天候にやきもきしながら、もし少しでも雨が降って来たら中止しようとまで決めていたが、幸い降りだすことはなかった。

ゲストスピーカーに福田晃越谷市長にも参加して頂き、会場に参加した約 50 名の市民は聞き入っていた。事実上の出陣式は大いに盛り上がった。

街宣車とネット配信の両面作戦を展開

選挙の１年程前から、YouTube を徹底的に駆使して市民との対話と説明に取り組んで来た。

旧来のフェイスブックやツイッター、インスタグラム、ポットキャスト等の更新を続けて来た。

特に最も困難でしかも一定の見識を持って発言するツイッター（１２０字以内での文字の投稿アプリ）の機能の中に声を配信する言わば私的ラジオ放送が出来るスペースを活用した。

更にこの録音を YouTube で配信して来た。当然私の努力とともに毎日 YouTube にアップして頂いた市民スタッフの努力も相当なものだった。このためか、白川ひでつぐの YouTube チャンネルの登録者数は２２０人を超えて全国の地方議員の中では上位に位置付けられる。

配信の動画総数は、５００本を超え選挙期間中のウグイス嬢からは「議員系ユーチューバー白川ひでつぐ」とのフレーズが度々発せられた。

１年間に渡りほぼ毎日２０分から３０分間、市議会や市政は勿論政治全体、社会、新聞、雑誌、映画、セミナー参加等を題材に話つづける事は、毎日、毎朝の駅立ちよりもはるかに苦しいものだった。（勿論駅立ちも相当の執念と忍耐力が必要なのだが）

しかもただの一度も同じ事は話せない。日々の活動は毎日休みなく継続している中での取り組みとなった。

この姿勢は、選挙本番でも発揮され市内５２０か所の公営掲示板の中で約５０か所を厳選して、その掲示板の前で１日７か所を YouTube のライブ配信で取り組んだ。毎日テーマを設定して、(選挙期間は１週間なので７テーマ) そのテーマについて１日７分割のシリーズで配信した。当然同じ話は出来ないので４９回違う内容となったが、１年間に及ぶ日常のスペースの配信によって訓練されており、それほどの苦労はなかったのだが。選挙期間中のテーマは以下の通り。

更に１日に２か所以上の住宅街やスーパー前等での街頭演説にも取り組み、この時間帯には街宣車の組と公営掲示板の組が合流して、選挙情勢や争点の設定、市民の反応とこちらもライブ配信を実施したため、同じ内容は一度もなかった。

また、各テーマは毎日夕方１時間を超える７つの駅前での「駅前市民対話集会」でのテーマともなり、これもライブで配信した。

４月１６日（日）
■深刻化する子ども達に「夢見る小学校」を
　１７日（月）
■個人情報保護法改正による地方自治と市民の役割
　１８日（火）
■縮退するこれからの公共施設の在り方
　１９日（水）
■地域公共交通は誰が担うのか
　２０日（木）
■地球環境危機を循環型社会への転換に
　２１日（金）
■町づくりの主役へ、中小企業をこう変える
　２２日（土）
■予算編成過程に市民が参加しなければ当事者意識は生まれない

ただ、この様な取り組みのため、私の街宣車への乗車は初日と最終日となったため、多くの市民の方からスピーカーから声が聞こえて来たので車を見たが本人が乗っていなかったが、何故だと選挙後聞かれもした。

こんな声も受けながら街宣車の運行責任者は、毎日配信される動画を午後９過ぎまでかかった選挙会議の終了後、自宅に帰り全部視聴して次の日のウグイス嬢のフレーズを更新して行く作業を担って頂いたため、睡眠時間は私と同様に３時間ほどだったと。

選挙運動は、候補者一人ではこなすことは難しい。それは様々な役割を担う市民を必要とするからだ。統括、総務、街宣車運行、広報、賄い、放送、事務所対応等であるが、今回は「チームパシュート」として、会社経営者、パート、非正規雇用者、大学生、主婦と多様なメンバーで構成された市民選対が全てを仕切って頂いた。このパシュートとはスケートの競技で１組３人で隊列を組んでゴールに向かうゲームで、先頭から後尾まで常に状況判断で入れ替わって行くもので、誰もがリーダーであり誰もがフォロワーになる能力と補完性を持つことで命名して頂いた。揃いのジャンバーの背中にはこの「チームパシュート」名とロゴが印字されていた。